

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative conferencing

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター展示会レポート 2003 年 11 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

展示会レポート

WAVE 2003

The Web, Audio, and Video Collaboration Event

2003 年 11 月 12 日-13 日

ロンドン・オリンピア・コンファレンス・センター

<http://www.wave-conferencing.com>



WAVE 展示会場内

去る 11 月 12 日、13 日とロンドンのアールズコートに近いロンドン・オリンピア・コンファレンス・センターで、欧州初の本格的な、テレビ会議、ウェブ会議、音声会議の展示会 & セミナーが開催された。

出展した企業、団体数は、28。有名なところでは、ポリコム、タンバーク、BT コンファレンシング、FVC、ウェベックス、シスコ(この会場でシスコのラティテュードコミュニケーションズの買収に関する第一報のニュースを聞いた)、アエスラ、ラドビジョン、フォーゼントなどが出展していたが、その他はイギリス企業が展示会場を占めていた。上の写真は、展示会場入口のところから撮った写真で右端に BT コンファレンシング、中央にポリコムが写っている。

今回は、ポリコム社がゴールドスポンサーだったようで、展示会場内と、来場者が、エレベーターが上がってきて出てくるところにも結構大きなブースを構えていた。エレベーターのところには、タンバークもポリコムに並んでブースを構えていた。タンバークは展示会場ホール内にはブースは設

置していなかった。タンバークは、TANDBERG7000 や 1000、880 などを展示していた。(エレベーターから出た広い通路に設置された、手前からタンバーク、奥がポリコム。エレベーターは写真左手にある。この広い通路に受付などがあった。



手前タンバーク、奥ポリコム

展示会場内奥には、パーティションなどで区切られた 2 つのセミナールームがあり、席数的に 20-30 人が座れるくらいのもので、そこでケーススタディーセッションやテクニカルセッションが 2 日間行われた。各セッションでは、Noel Edmond 氏の基調講演、コミュニケートマガジン・エディタの John Capman 氏、Videoconferencing Insight 誌の Richard Line 氏、Wainhouse の Marc F. Beattie 氏、その他各社の幹部などの講演が行われた。



今回の WAVE の趣旨などについて、直接今回の主催社である英 ROCK MEDIA 社 (<http://www.rockmedia.biz/>) のマネージングディレクターの Piers Bearne 氏と、ショーディレクターの Jim Condon 氏にお話を伺ったところ、「WAVEは

今年初の試みで、ユーザーとベンダーが“交流 (Interaction)”できる場を設けることにより、この業界マーケットを活性化させることを目的に開催しました。

目的の700-800名のエンドユーザー、主に意志決定を行うような方々、の参加は達成できたようで、メーカー、リセラー、エンドユーザーとハイレベルな交流ができたと自負しています。

来年は、11月17日、18日を予定していますが、来年の出展社数は、25から40社、ウェブ会議を使ったセミナーセッション、エンドユーザーなど参加者をもっと呼ぶためのマーケティング活動、上級ユーザーのためのセミナーセッションなどを現在計画しています。また、WAVEをヨーロッパを代表するイベントに育てることを考えています。」

アメリカでは、本家本元の業界展示会 Telecon が終焉し、ウエイハウス社が Conference4Business を全米で開催しているが、ヨーロッパでは、この WAVE が見逃せない業界展示会として今後発展していくのではないかと感じた。

ポリコム、VSX7000 を展示、ヨーロッパでの IP 化率はまだまだ、ISDN が 8 割ぐらゐを占める

今回の WAVE では、ポリコムは、既存の IPOWER テレビ会議や、最近発売された新しい端末である VSX7000 を全面に展示し、H.264 などのデモを行っていたようだ。またブースを案内していただいた、リセラーの VideoCentric 社、Craig A. Brown 氏は、先述の Videoconferencing Insight 誌に、VSX7000 のテクニカルレビューを執筆しているの、興味のあるかたは、<http://www.videoconferencing.co.uk/default.asp?artID=1211> を読まれてみるといいかと思う。VideoCentric 社は、ポリコム製品だけでなく、ソニーや VCON、タンバークなども扱っている。

ヨーロッパでの IP 化率はまだまだ、ISDN が 8 割ぐらゐを占める、イギリスではタンバークのシェアがトップ

同 Craig Brown 氏によると、テレビ会議の IP 化率はまだまだで、ISDN でのテレビ会議が8割を占めるようだ。ようやくブリテッシュテレコムが、来年から2Mbps の ADSL を始

めるという感じで日本ほどの ADSL 熱はないようだ。まだまだ帯域自体が十分でないため IP テレビ会議ができないというのが現状のようだ。IP テレビ会議を行うとすれば IP-VPN や専用線を引くというのが主流のようで、しかしコスト的に高いので ISDN でテレビ会議を行うというのが一般的。

また、Brown 氏に同席した、Videoconferencing Insight 誌 (<http://www.vcinsight.com>) のエディタ、Richard Line 氏によると、イギリスでは、タンバークのシェアがトップだという。サポート体制の構築がポリコムよりも早く充実していたのが要因ではないかと同氏はみている。また、イギリスは、ヨーロッパの中でもテレビ会議の出荷数が一番多いようだが、それはそれだけ米系などの多国籍企業が多いからではないかと説明していた。



英 Network-I、IP—VPN によるテレビ会議サービス

英企業である Network-I は、1996 年に IP-VPN サービスを提供するために設立された会社で、現在はブロードバンドにおいて主要なアプリケーションとみられている IP テレビ会議のサービス (InVision Videoconferencing) を欧州と北米で展開している。

一言で言えば、この CNA リポートで度々リポートするアメリカのグローポイントの IP テレビ会議に似たようなサービスで、指定のアクセスポイントまで専用回線などで接続し、月額固定で IP テレビ会議が行えるもの。また顧客のサポートなどはヘルプデスクなどで行う。

同社の事業開発担当ディレクターの Barry Reynolds 氏によると、「弊社テレビ会議サービスは、非常に簡単に低価格で利用できるサービスですが、高い QoS に基づく SLA (サービス・レベル・アグリーメント) も対応しています。テレビ会議については、ワンストップショッピングベース (そこに行けば全てサービス、対応が受けられるという意味で) サービス展開を行っています。」現在欧州北米が主だが、日本のある大手銀行も同社の IP テレビ会議サ

ービスを利用しているようだ。

今後は、「日本でもビジネス展開ができればと思っています。現在それに向けて日本のパートナーを探しています。その際には、日本向けのヘルプデスクなども必然的に必要になると考えています。」



Network-I 社ブース

この会社は、IP テレビ会議サービスを展開しているが、その他にも、ストリーミングサービスである、“Instream Video/Audio Streaming”サービス、インターネット接続サービス、マネージド・ネットワーク・サービス、バーチャルISPサービス、VPNサービス、サーバーホスティングなども行っているという。

ブースでは、IP テレビ会議のデモなどを会場と他の場所を接続しておこなっていた。確か 768kbps などで接続していて、来場者に映像の質の高さなどPRしていた。

ウェブ会議系は、5社展示、多地点サービス事業者も数社出展、MPEG4ビデオ監視システムも

会場ではウェブ会議系は、BT コンファレンシング、ウェベックス、KMS、FVC、Linktivity が展示していた。ウェベックス、FVC や Linktivity は米系の会社。

KMS (Kerridge Media Services) は、データベースソリューションなどを提供しているが、音声会議、ウェブ会議、テレビ会議サービスも提供している。

また、オランダの SNT Conferencing はイギリス市場に参入し、多地点サービスを提供しているサービスプロバ

イダー。音声会議、ウェブ会議、テレビ会議サービス、イベントマネージメントなど提供している。

ビデオ監視システム関係は、米系の envivio.社が開発した MPEG4 対応の製品が展示されていた。

BT コンファレンシングーウェブ会議

BT コンファレンシングは、ブリテッシュテレコムの子会社のテレビ会議、音声会議、ウェブ会議サービスを担当する部門。この WAVE では、ウェブ会議にポイントを置いた展示を行っていた。

BT コンファレンシングでは、ウェブ会議については、同社が独自のウェブ会議インターフェイスと、米ウェベックス社のウェブ会議インターフェイスの 2 つを提供しており、同社セールス・マネージャーの Geeth Kulendran 氏によると、現在ウェベックスサービスを単独で利用されている顧客でも BT のサービスに簡単に移行できるようにウェベックスのサービスも提供しているという。機能的には、同社が開発したウェブ会議インターフェイスとウェベックスのそれと変わりはないので、顧客は好きな方を自由に使えるようにしているという。

テレビ電話系ーPIC-TEL、Motion Media、Aethra

テレビ電話系は、3社、PIC-TEL、Motion Media、Aethra が展示していた。前者2社は英系企業で、Aethra はテレビ会議システムも販売するイタリア企業。

PIC-TEL

PIC-TEL は、メーカーというよりは、テレビ電話専門の販社で台湾や韓国製のテレビ電話を輸入しイギリス国内で販売している。同社の Oliver Green 氏によると、自社開発はせず、すでにそういったテレビ電話の得意なメーカーからいい製品を輸入しそれを販売することに特化しているという。ブースでは、韓国の C&S ネットワーク社の Vizufon (アナログテレビ電話など) を展示していたが、IP テレビ電話について聞いたところ、イギリス国内ではIP化

はまだまだなので、今のところは一般家庭にはアナログテレビ電話が一般的とのこと。

Motion Media



mm745

また、Motion Media では、役員向けなどの H.323 対応のテレビ電話 mm745 や一般ホーム向けの H.323 と H.324 に対応した mm156、また監視系の製品 EyeSite140 などを展示していた。同社の欧州アフリカ中東担当副社長の Max Arafa 氏とお話させていただいたが、日本での第三世代携帯でのテレビ電話に非常に関心がある方で、今後ヨーロッパにも携帯テレビ電話が普及すればそれらと、同社のテレビ電話が双方向で通信ができる環境を提供するソリューションが構築できればと、携帯テレビ電話と(固定)テレビ電話の可能性に期待を持っていた。

mm745 は、12.1 インチのアクティブ TFT LCD ディスプレーを搭載し、サポートする IP の帯域は、128kbps から 768kbps。映像符号化は、H.263+に対応している。ウェブブラウザも搭載し、インターネットも閲覧できる。プロセッサは Equater のチップを搭載。TV やビデオ、PC などとの接続も可能。同社は、英 ICUGlobal 社(マネージングディレクター Stephen McKenzie 氏)と共同出展。

Aethra

アエスラ社は、同社のテレビ会議システムである Vega

Star や、H.323 と H.324 に両方対応したテレビ電話 Theseus、Maia Star (CNA リポート Vol.5 No.18 2003 年 10 月 31 日号参照)などを展示していた。



Mia Star



Theseus

アイキャッチを重視したテレビ会議

オランダ Ex'ovision

オランダの Ex'ovision は、Eckart J. Wintzen 氏(ソフトウェアビジネスで富を稼ぎ出したオランダの大物実業家と言われる。)が過去に稼ぎ出した富を、“バーチャル・プレゼンス”実現のために 2000 年に起こした会社。“Eye Cather”という製品を開発し今年から販売を欧州と北米で開始した。



Eye Catcher

上の写真がアイキャッチを重視し設計開発された“Eye Catcher”(H.323 と H.320 に両方対応)。他社のテレビ会議コーデックを利用して設計開発された製品。独自ではコーデックを開発していない。左側の黒い棒みたいなものがマイクで、右側はPDA。現在のバージョンの製品は、PDAで本体の操作を行うが、来年に出てくる新製品はテレビのリモコンタイプのものになり使いやすくなるそうだ。

人がピースサインをしているが、その部分が鏡で、本体上部から鏡に対して映写している。カメラ自体も本体内に内蔵され、鏡を通して、自分の映像が内蔵カメラにキャプチャーされて、相手にその映像が伝えられるという仕組み。15 インチのLCDに鏡を組み合わせた。カメラは1/4CCDを搭載し、パン・チルト・ズーム(4x)が可能。エコキャン、ノイズリダクション対応。

H.323 (IP、H.261、H.263、H.263+対応)では、1024kbps、H.320 (ISDN)では、384kbps まで対応。価格は、8000EURO (約 105 万円)。

会場の中では一番注目されていた製品だったと思う。人だかりが結構すごかった。

IMCCA

IMCCA は、Interactive Multimedia Collaborative Communications Alliance の略でアメリカをベースとした、テレビ会議、ウェブ会議、音声会議の利用促進と普及を図る目的で設立された任意団体。前身が、ITCA と呼ばれる任

意団体で、編集長橋本も会員だったが、98 年頃だったか、組織が解散し、それを受け継いだ形で IMCCA が組織され



た。橋本は IMCCA の会員ではないが、同組織は個人会員から企業会員と募集中。会場では、エグゼクティブ・ディレクターの Carol Zelkin 氏と話を

したが、日本に同様な組織があるのであれば何らかのコラボレーションができないだろうかということと、IMCCA にも日本からは是非参加していただければと言っていた。来年アメリカやジュネーブで開催される INFOCOMM やその他の業界関連のイベントに IMCCA として参加していくそうだ。詳細は、以下の URL を参照されたい。<http://www.imcca.org>

CNA Report Japan(シーエヌエー・レポート)
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report 展示会レポート 2003 年 11 月)